日旅連 新中計に連動し宿泊増売へ、12支部連合会

日本旅行協定旅館ホテル連盟の全国12支部連合会長に2026年度の事業計画をアンケート形式で聞いた（①連合会、支部事業で、今年特に力を入れていること②地域キャンペーンの展開について③連合会、支部の特別企画商品について④連合会、支部の宣伝活動について⑤各種委員会の活動について⑥日本旅行に要望すること⑦傘下の会員に要望すること⑧その他）。II6面に続く

新潟支部連合会

強固な連携で観光振興

白崎純也会長

平素は、新潟支部連合会の事業活動に対し、日本旅行グループ並びに会員各位より多大なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年、新潟の観光は大きな転換点を迎えました。悲願であった「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録を受け、海を越えて世界中から多くのお客さまをお迎えする喜びを分かち合い、国内外から熱い視線を浴びた1年となりました。

迎えた2026年、日本海沿岸の観光はさらなる進化を遂げます。米有力メディアの「2026年、行くべき旅先」に佐渡が日本で唯一選ばれるなど、世界からの視線はかつてないほど熱くなっています。この好機を逃さず、新潟が誇る美食や美酒、そして四季の移ろいを、一過性のブームではなく、深く心に刻まれる「物語」としてお届けしていく所存です。

また出羽三山の神秘的なエネルギーが満ちる特別な年であり、夏にはJR東日本さまによる「山形庄内観光キャンペーン」の開催も決定しております。新潟から庄内へと続くこの美しい海岸線は、いまや「世界が注目する場所」へと成長をいたしました。

そのような中で本年は日本旅行さま、そしてNic会員の皆さまと新潟支部連合会との強固な連携のもと、三つの柱を中心に観光振興にまい進いたします。

第一に、地域一体となった「コンテンツ開発事業」です。新たな販売システム「バリューコネクト」を軸に、地域の観光素材を迅速にWeb商品化。まずは航空ダイナミックパッケージ（DP）から展開し、JRセットプランへの組み込みを予定しております。行政や会員施設と足並みをそろえ、エリア全体の誘客力を底上げしてまいります。

第二に、日本旅行さまの新設インバウンド事業推進部との連携強化です。海外OTAとの連動により、早期の集客から間際予約まで柔軟に対応できる体制を構築。冬のスノーシーズンに加え、新緑や登山の「グリーン期」の呼び込みも加速させてまいります。

第三に、地域連携した団体誘致です。特別団体プラン作成や小団体のWeb予約などを推進し、大型団体誘致には地域の観光素材を組み込み、ここでしかできないコンテンツを発信していきます。

この強力なパートナーシップを礎に、新潟と庄内が誇る食文化と歴史の奥深さを融合させ、訪れる方々に「日本海の真髄」を体感していただけるよう全力を尽くす所存です。

そのためには日本旅行さまをはじめとして、各関係個所のご協力が不可欠であります。今まで以上に連携を密に、新潟・庄内地域への誘客、会員施設への誘客に取り組んでまいりますので本年も関係各位一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

東北支部連合会

高付加価値観光へ転換

高橋明浩会長

日頃より東北支部連合会の事業活動に対し、日本旅行グループ並びに連盟会員の皆さまより多大なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

東日本大震災から15年という節目の2026年は東北観光を「復興支援」から「持続的な高付加価値の観光」へと転換する時期になるのではないかと感じています。

本年、東北ではイベントも多く春には4～6月にJRグループと連携した国内最大級のキャンペーン「ふくしまデスティネーションキャンペーン」が開催されます。福島県の自然、食・発酵、歴史・伝統、復興の歩みを軸に、福島県内全域で特別公開や限定イベントが展開され、ここをフックに東北全域にお客さまが広がることを期待しております。

夏には「第50回全国高等学校総合文化祭」が秋田県で、秋には「青の煌めきあおもり国スポ・障スポ」が青森県で開催され、11月にはREN－CUPin東北が宮城県で開催されます。東北の魅力を大いに感じてもらえるような大会にしたいと考えておりますのでどうか奮ってご参加のほどよろしくお願いいたします。

日本旅行の皆さまと協力をしながら地域のさまざまな高付加価値のコンテンツに関して取り組みを行い、会員一同が喜べる年にしたいと考えています。引き続きご指導いただきますようよろしくお願い申し上げます。

長野支部連合会

27年に向けてステップ

西山平四郎会長

2025年度につきましては、長野支部連合会は、日本旅行の送客額が前年度を上回りました。12支部連合会の多くが前年度の数字に届かなかったことからすると、いい年だったと思われますが、実感としてなく「そうなのかなぁ」というものでした。

ただ、12月6日に日本旅行120周年記念事業の一環として、120年前に限りなく近づけた形で、日本旅行120周年記念善光寺団体臨時列車の運行の受け入れをできたことは非常にうれしく思っています。

大阪始発で大津にとまり、名古屋経由で長野までの7時間をかけた300名をのせた善光寺詣りの直通列車。JR西日本、JR東海、JR東日本を通るこの団臨は「日本旅行」でなければできないものだと思いました。

2026年度は長野には残念ながら大きなイベントがありません。しかし2027年には善光寺の御開帳が4月4日の「開眼法要」から6月19日の「結願法要」までの77日間にわたり行われます。前回の御開帳は、新型コロナ禍の影響で1年遅らせ2022年で行われました。

6年周期で行われますので、2028年も考えられましたが、長野市および長野県の経済界の強い希望により、本来の2021年を基準として行うということで2027年の実施となりました。

新型コロナ禍の2022年の御開帳でも600万人を超える参拝客を迎えた長野県でも最大のイベントのひとつです。ただ開催が4月からですので今年度に誘客事業をしなければなりません。

過去にも40人規模の社員研修を行い、「宿坊」に泊まっていただき、本物の精進料理を食べ、お朝事に参加、御戒壇巡りをして「善光寺」の多くを体験してもらいました。

本年も連合会事業として行うか北信支部事業として行うかは未定ですが、必ず実施したいと思っています。

2027年の7月から9月はJRデスティネーションキャンペーンが行われます。

ただこのイベントはJRと行政（長野県）が主体となりますので、過去の例を見ても、あたりはずれの大きいイベントと思っています。集客力のある場所に決まればと願っています。

2026年は2027年に向けてステップの年と位置付けています。

北陸支部連合会

質を高める取り組みを

山口透会長

平素は北陸支部連合会の事業活動に対し、日本旅行グループ並びに日旅連の皆さまには、日頃より多大なるご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

令和6年1月1日に発生いたしました能登半島地震から2年が経過いたしました。被災地では今なお復旧・復興の途上にあり、困難な状況が続いております。改めて、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、北陸全体で寄り添い続けていく必要性を強く感じております。

さて、北陸新幹線福井延伸から一定の時間が経過し、北陸へのアクセス環境は大きく向上いたしました。しかしながら、新幹線が開業しただけで観光客が継続的に増える時代ではなく、交通利便性の向上は、あくまでスタート地点に過ぎません。

現在は、旅館・ホテルや地域そのものの魅力が問われるフェーズに入ったと認識しております。「なぜ北陸なのか」「なぜこの宿なのか」という問いに、明確な答えを示せなければ、選ばれ続けることはできません。

われわれ北陸の旅館・観光事業者には、地域の歴史や文化、食、温泉、人の温もりといった、他地域にはない価値を磨き上げ、体験として届けていく責任があります。単なる宿泊の提供ではなく、北陸でしか味わえない時間そのものを創り出すことが、これからの観光に求められていると考えております。

北陸支部連合会といたしましても首都圏へのアプローチや商品造成を引き続き強化するとともに、日本旅行グループさま、日旅連さまとの連携のもと、北陸観光の「質」を高める取り組みに力を注いでまいります。

最後に、これまで賜りました多大なるご支援に改めて感謝申し上げます。震災からの復興、そして新幹線開業後の次なる成長に向け、われわれオール北陸が一丸となり、観光を通じて地域の価値を高め続けていく所存でございます。本年も変わらぬご指導、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

中国支部連合会

ブランド価値の向上へ

宮川和也会長

観光市場が活気を取り戻した今、われわれ日旅連会員の皆さまと改めて心に刻んでおります「宿はお客のためにある」という精神を基に日夜頑張っております。

宿はお客さまの喜びのためにあり、その満足の報酬としてわれわれの繁栄がある。この不変の真理こそが、時代が移り変わろうとも変わらぬ観光業の背骨と存じます。

日本旅行協定旅館ホテル連盟中国支部連合会は、日本旅行さまと共に、しっかりと二人三脚で地に足をつけて歩んでまいりたいと存じます。

われわれが冠する山口、広島、岡山の中国3県は、三県三様の深い歴史と文化、そして豊かな自然を有しています。広島の平和と国際性、岡山の芸術と情緒、山口の歴史と湯。これらを「点」ではなく「線」で結び、支部を越えた広域的な連携を深め、中国地方全体のブランド価値を高めることが、人口減少社会における持続可能な観光の鍵となると存じます。

一方で、人手不足や施設維持といった課題も山積しています。

しかし、お客さまを思う「真心」は、そこで働くスタッフの幸せな心からしか生まれません。設備投資と人材育成という「魂」の研さんを両立させ、日本旅行さまと共に、安全で快適な、そして心温まる宿づくりを進めてまいる所存でございます。

日旅連の会員の皆さまと共に、一期一会の精神を磨き抜き、中国地方を世界に誇れる「心のふるさと」にしていこうと考えております。日本旅行さまと共に、日旅連の商いの正道を歩み、地域の光となる。その決意を胸に、新たな観光の地平を切り開いてまいる所存です。

中部支部連合会

着地コンテンツを開発

金原貴会長

平素は日旅連中部支部連合会の事業活動に対し、皆さま方より多大なるご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、中部地区で初めて「ツーリズムEXPOジャパン2025愛知・中部北陸」が愛知国際展示場で開催され、目標を上回る約12万7千人が来場し「旅は〝知〟の再発見」をテーマに、中部エリアの「昇龍道」の魅力が発信され、大盛況のうちに終了いたしました。

本年度5月からは、20年に1度の式年遷宮における奉祝行事の「お木曳行事」が始まり、9月には、愛知・名古屋を中心にアジア競技大会・アジアパラ競技大会が開催され、開催地として中部エリアの魅力度向上が期待されます。

本年度、日本旅行では、日本の魅力を最大化し訪日旅行客に新たな価値を提供するべくインバウンド・グローバル事業本部が創設され、国内旅行では、着地観光素材を選べる「赤い風船セレクト」の販売を開始し赤い風船ブランド力向上をすすめており、中部支部連合会として、地域の魅力向上のため、団体・個人・訪日などあらゆるチャンネルに向けた着地コンテンツの開発を会員の皆さまと連携し、行ってまいります。

さらに、ワークショップ・商談会の機会を増やし会員の皆さまと日本旅行社員の皆さまとの接点を増やし、宿泊施設だけでなく観光施設、貸し切りバス事業者でお互いに協力し活動してまいります。

本年も引き続き皆さま方のさらなるご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

私ども“日旅連”は、
日本旅行とともに会員の
発展向上に貢献します

地域に根ざした誘客活動や
国内外のマーケットに向けた誘致事業を
通じて宿泊販売の拡大を目指します

日本旅行 協定

日本旅行協定旅館ホテル連盟

〒103-0027
東京都中央区日本橋1-19-1日本橋ダイヤビルディング11階
TEL (03)6895-4888　FAX (03)6895-4880

会長	白石武博
常任副会長	金原貴
副会長	山本剛史
副会長	南智子
副会長	高橋明浩
中部支部連合会長	金原貴
関東支部連合会長	山本剛史
北海道支部連合会長	南智子
東北支部連合会長	高橋明浩
新潟支部連合会長	白崎純也
長野支部連合会長	西山平四郎
北陸支部連合会長	山口透
関西支部連合会長	金子博美
中国支部連合会長	宮川和也
四国支部連合会長	漆原康博
九州支部連合会長	伊藤博太
沖縄支部連合会長	親盛一功